



トイレットペーパー「3倍巻き」特許侵害訴訟：大王製紙の勝訴確定とその意義

訴訟の概要と判決内容

2025年10月27日、大王製紙は従来より3倍の長さのトイレットペーパーに関する特許権について日本製紙クレシアと争った訴訟で勝訴が確定したと発表した。この訴訟は、日本製紙クレシアが2022年9月6日に東京地方裁判所に提訴したことに始まる。[\[1\]](#)[\[2\]](#)

訴訟の当事者

- 原告：日本製紙クレシア株式会社（日本製紙の子会社、「スコッティ」「クリネックス」ブランドを展開）
- 被告：大王製紙株式会社（「エリエール」ブランドを展開、家庭紙国内シェア首位）

訴訟の対象製品

大王製紙の「エリエール i:na（イーナ）トイレットティッシュ 3.2倍巻 ダブル」など3製品。日本製紙クレシアは、これらの製品が自社の特許3件を侵害しているとして、製造・販売の差し止め、製品の破棄、および3,300万円の損害賠償を求めた。[\[3\]](#)[\[1\]](#)

訴訟の経緯

- 2022年9月6日：日本製紙クレシアが東京地方裁判所に提訴[\[1\]](#)
- 2024年8月21日：東京地方裁判所が日本製紙クレシアの請求を全て棄却（大王製紙勝訴）[\[4\]](#)[\[1\]](#)
- 2024年9月3日：日本製紙クレシアが知的財産高等裁判所に控訴[\[1\]](#)
- 2025年10月8日：知的財産高等裁判所が控訴を棄却（大王製紙勝訴）[\[4\]](#)[\[1\]](#)
- 2025年10月27日：日本製紙クレシアが最高裁判所への上告・上告受理申立てを行わず、大王製紙の勝訴判決が確定[\[2\]](#)[\[1\]](#)

対象特許の詳細と技術的内容

日本製紙クレシアが主張した特許は以下の3件である：[\[5\]](#)[\[6\]](#)[\[3\]](#)

特許第6735251号「トイレットロール」

- 出願日：平成29年（2017年）4月20日
- 登録日：令和2年（2020年）7月15日
- 技術内容：2プライに重ねられたエンボス加工を有するトイレットペーパーに関し、エンボス深さ、巻固さ、巻長、巻直径、巻密度などを数値で限定した発明[\[7\]](#)[\[6\]](#)[\[5\]](#)

請求項1では、エンボス深さが0.05～0.40mm、巻固さが0.3～1.4mm、巻長が63～103m、巻直径が105～134mm、巻密度が1.2～2.0m/cm²などの数値範囲を特定している。[\[7\]](#)[\[5\]](#)

特許第6590596号「ロール製品パッケージ」

- 出願日：平成27年（2015年）8月31日
- 登録日：令和元年（2019年）9月27日
- 技術内容：長巻トイレットペーパーを複数個収納したロール製品パッケージに関する発明で、包装袋の形状、把持部の構造、傾斜角などを数値で限定[\[8\]](#)[\[6\]](#)[\[5\]](#)

特許第6186483号「トイレットロール」

- 出願日：平成28年（2016年）10月13日
- 登録日：平成29年（2017年）8月4日
- 技術内容：2プライ積層したトイレットペーパーの巻長、巻直径、ロール柔らかさなどを数値で限定した発明[\[6\]](#)[\[5\]](#)

これら3件の特許はいずれも**数値限定特許**であり、長尺トイレットペーパーを実現するために、紙の柔らかさ、巻き方、パッケージの形状などを最適化した数値範囲を特定している点が特徴である。[\[5\]](#)
[\[7\]](#)

裁判所の判断と争点

一審（東京地方裁判所）の判断

東京地裁は2024年8月21日、大王製紙の製品が日本製紙クレシアの3件の特許のいずれも侵害していな

いと判断し、請求を全て棄却した。裁判所は、大王製紙製品の凹凸の深さが日本製紙クレシアの特許発明が定める数値範囲内にない、形状の構成が異なると認定した。^{[3][4][1]}

二審（知的財産高等裁判所）の判断

知財高裁は2025年10月8日、中平健裁判長の下、一審判決を支持し、日本製紙クレシア側の控訴を棄却した。知財高裁も、大王製紙製品の凹凸の深さは日本製紙クレシアの特許発明が定める数値範囲にないと認定した。^{[9][10][4]}

主な争点

訴訟の主な争点は、大王製紙の製品が日本製紙クレシアの特許の**技術的範囲に属するか否か**、特に**数値限定発明における数値範囲の充足性**であった。^{[11][12][5]}

裁判所は、エンボス深さの測定方法について明細書の記載に厳格に依拠して解釈し、大王製紙製品は日本製紙クレシアが特許請求の範囲で特定した数値範囲を満たしていないと判断した。^{[12][13][5]}

この判決は、「**パラメータ特許の罟**」とも評され、測定方法の記載の不明確さや数値範囲の限定が権利行使において致命的な結果をもたらすことを示す教訓的な判例となった。^[13]

訴訟当事者の事業概況と競合関係

大王製紙

- 家庭紙事業において国内トップシェアを誇る^{[14][15]}
- 「エリエール」ブランドを展開し、トイレットペーパー、ティッシュ、おむつなど幅広い製品群を持つ^[16]
- 2022年度のホーム&パーソナルケア部門の売上高は約1,700億円規模^[14]
- トイレットペーパー市場では約23%のシェア（2015年時点）を持ち、日清紡の紙事業買収により2017年にはシェア31%に拡大^[14]
- 1997年に1.5倍巻き、2014年に2倍巻き、2022年4月に3.2倍巻きを発売^{[17][18]}

日本製紙クレシア

- 日本製紙グループの家庭紙事業子会社、家庭紙市場で国内2位^{[19][14]}
- 「スコッティ」「クリネックス」ブランドを展開
- 2016年前後の売上高は約720億円^[14]

- トイレットペーパー市場では約12%のシェア（2015年時点）^[14]
- 1996年に長巻きトイレットペーパーの第1号製品を投入^[18]
- 2012年から「3倍巻き」の開発を進め、50件以上の関連特許を取得^{[20][18][3]}

両社の競合関係

家庭紙市場では、大王製紙（エリエール）と日本製紙クレシア（スコッティ、クリネックス）、王子ネピアの3社が寡占構造を形成している。特に長巻きトイレットペーパー市場は、取り替え頻度の減少、収納スペースの削減、物流効率化などのメリットから急成長しており、2017年度には市場の14.2%だったシェアが2021年度には30.0%にまで拡大した。^{[21][22][17][19]}

大王製紙の3.2倍巻き製品は、一般的な「25m×12ロール」のトイレットペーパーより1パックの総メートル数が20m長い「80m×4ロール」（計320m）で、在宅時間増加による使用量増加（約301mから約315m）に対応した製品戦略を採っている。^[17]

長巻きトイレットペーパー市場の動向

市場規模と成長

長巻きトイレットペーパーは、近年急速に市場シェアを拡大している。市場調査会社インテージによると、長巻きタイプが市場に占める割合は2017年度の14.2%から2021年度には30.0%へと、わずか5年で2倍以上に伸長した。現在では市場の約3割を占めるまでに成長している。^{[3][17]}

消費者メリット

長巻きトイレットペーパーの主なメリットは以下の通りである：

1. **取り替え頻度の減少**：1ロールが従来品の3倍以上の長さがあるため、ロール交換の手間が大幅に削減される^{[17][1]}
2. **持ち運びの容易さ**：パッケージがコンパクトになり、買い物時の持ち運びが容易になる^{[23][17]}
3. **収納スペースの削減**：保管に必要なスペースが少なく済み、災害時の備蓄用としても最適^{[24][25][1]}
4. **環境負荷の低減**：包装資材の削減、輸送効率向上によるCO₂排出量削減（日本製紙クレシアの試算では最大41%削減）^{[26][23][24]}

他社の類似製品

長巻き市場には、大王製紙と日本製紙クレシア以外にも、以下のような製品が展開されている：

- **王子ネピア**：長巻きタイプのトイレットペーパーを展開^[27]
- **丸富製紙**：業界でも特に長尺に特化し、5倍巻き（250m）、6倍巻き（300m）、7.11倍巻き（356m）など超長尺製品を展開。2023年には超長尺（200m以上）トイレットペーパーの製法に関する特許（特許第7391371号）を取得^{[28][29][30]}

今回の判決が業界に与える影響

大王製紙の市場における優位性

今回の勝訴判決確定により、大王製紙は長巻きトイレットペーパー市場において以下の優位性を確保した：

1. **製品継続販売の確保**：「エリエール i:na 3.2倍巻」シリーズの製造・販売を継続でき、急成長する長巻き市場での地位を維持^{[31][1]}
2. **独自技術の正当性確認**：大王製紙が開発した「ダブルエンボス加工技術」や「長尺巻取り技術」などの独自技術が他社特許を侵害していないことが司法の場で確認された^[1]
3. **研究開発投資の正当化**：約3年間にわたる訴訟を経て、自社の研究開発と特許出願戦略の正当性が証明された^[1]

日本製紙クレシアへの影響

一方、日本製紙クレシアは以下の影響を受ける可能性がある：

1. **特許戦略の見直し**：50件以上の関連特許を保有していたにもかかわらず、数値限定特許の権利範囲が想定より狭いことが判明し、今後の特許戦略の見直しが必要となる^{[18][3]}
2. **市場シェアへの影響**：競合他社の参入を特許で阻止できなかったことにより、長巻き市場でのシェア獲得競争が激化する可能性^{[32][33]}
3. **訴訟費用の負担**：約3年間の訴訟費用と、上告を断念したことによる機会損失^{[34][1]}

他社の戦略への影響

今回の判決は、トイレットペーパー業界全体に以下のような影響を与えると予想される：

1. **新規参入の促進**：日本製紙クレシアの特許網による参入障壁が想定より低いことが明らかになり、他社の長巻き市場への参入が加速する可能性^{[33][27]}
2. **技術開発競争の激化**：特許侵害を回避しながら独自の技術を開発する動きが強まり、長巻きトイレットペーパーの品質向上や新機能の開発が進展する^{[35][33]}

3. **価格競争の可能性**：市場参入が容易になることで、価格競争が激化する可能性もある^{[36][21]}
4. **環境対応製品の拡大**：大王製紙は訴訟終了後に「SDGs推進のため、当社が保有する長巻タイプに関する技術について、広く業界全体で使用してもらうことを検討していく」と表明しており、業界全体での長巻き製品の普及が進む可能性^[37]

知的財産権専門家の見解と分析

数値限定特許の問題点

今回の訴訟では、日本製紙クレシアの特許が全て数値限定特許であったことが敗訴の大きな要因となった。知財専門家は、以下の点を指摘している：^[3]

1. **権利範囲の狭さ**：数値を限定すると権利範囲が狭くなり、その数値範囲外の製品には権利が及ばない^{[38][3]}
2. **臨界的意義の必要性**：数値限定特許では、その数値に特有の効果（臨界的意義）がなければ進歩性が否定されやすい^{[39][38]}
3. **測定方法の重要性**：エンボス深さなどのパラメータを特定する場合、測定方法を明細書に明確に記載する必要がある、記載が不十分だと権利行使時に不利になる^[13]

類似の特許侵害訴訟事例

日用品をめぐる特許侵害訴訟の事例として、以下が挙げられる：

1. **保湿ティッシュ訴訟（大王製紙 vs 日本製紙クレシア）**：2012年、大王製紙が日本製紙クレシアの「クリネックス ティッシュ アクアヴェール」が自社の保湿成分配合ティッシュの特許を侵害しているとして提訴したが、2016年に最終的に敗訴。今回の訴訟とは逆の立場での争いであった^{[40][41]}
2. **花王 vs ヘンケル（泡状ヘアカラー訴訟）**：花王がドイツのヘンケル社の泡状ヘアカラーが自社の知的財産権を侵害したとして日独の裁判所に提訴し、2022年9月に和解が成立^[42]
3. **防波堤用ブロック事件**：数値限定発明において均等侵害が認められなかった事例として知られており、数値限定クレームでは文言侵害も均等侵害も認められにくいことを示す^{[38][39]}

実務上の教訓

今回の訴訟から得られる知財実務上の教訓は以下の通りである：

1. **数値限定を避ける検討**：構造物の発明で数値限定特許は権利範囲が狭くなるため、可能であれば数値限定を避けた権利化を検討すべき^{[38][3]}
2. **複数の特許出願戦略**：権利範囲を広く確保するため、数値限定のない広いクレームと、数値限定のある狭いクレームを組み合わせた特許ポートフォリオを構築すべき^[38]
3. **測定方法の明確化**：パラメータ発明では、測定方法を明細書に詳細に記載し、第三者が再現可能な形で特定すべき^[13]
4. **特許網の構築**：単一の特許ではなく、製造方法、製品構造、パッケージなど多面的な特許網を構築することが重要^{[43][18]}

結論

2025年10月、大王製紙が日本製紙クレシアとの「3倍巻き」トイレットペーパー特許侵害訴訟で勝訴が確定したことは、トイレットペーパー業界における技術開発競争と知的財産戦略に重要な影響を与える出来事となった。^{[2][1]}

訴訟の経緯を振り返ると、日本製紙クレシアは2022年9月に提訴してから約3年間、東京地裁と知財高裁で争ったものの、いずれも敗訴し、最終的に上告を断念した。裁判所は、大王製紙の製品が日本製紙クレシアの特許の数値範囲に含まれないと判断し、特許侵害を否定した。^{[10][4][1]}

この判決は、数値限定特許の権利範囲の限界を示すとともに、特許による市場の独占が必ずしも容易ではないことを明らかにした。特に、日本製紙クレシアが50件以上の関連特許を保有していたにもかかわらず、権利行使に失敗したことは、特許の「質」が「量」と同等に重要であることを示している。^{[12][18][13][3]}

今後の業界動向としては、大王製紙の勝訴により長巻きトイレットペーパー市場への参入障壁が低下し、新規参入や技術開発競争が活発化すると予想される。同時に、環境負荷低減や消費者利便性向上を目指した長巻き製品の普及が加速し、市場全体の成長が続くと見込まれる。^{[33][23][24]}

日本製紙クレシアにとっては、今回の敗訴を教訓に、より強固な特許戦略の構築と製品開発の強化が求められる。一方、大王製紙は、訴訟で確認された独自技術の正当性を武器に、長巻き市場でのさらなるシェア拡大を図ることが期待される。^[1]

この訴訟は、日用品分野においても知的財産権を巡る激しい競争が展開されていることを改めて浮き彫りにし、企業にとって特許戦略の重要性を再認識させる契機となった。^{[32][13]}

*
**

1. <https://www.daio-paper.co.jp/news/特許侵害訴訟における当社勝訴判決確定に関する/>
2. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC277P20X21C25A0000000/>
3. <https://maedapat.co.jp/view/372/>
4. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD07BIE0X01C25A0000000/>
5. <https://www.meisei.gr.jp/report/トイレットロール特許権侵害差止等請求事件/>
6. https://sonare-ip.com/jpn/wp-content/uploads/2024/11/093308_hanrei.pdf
7. <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/9456c230871ca210f3ab0598b096ef6dfb9eec9b>
8. <https://ipforce.jp/patent-jp-B9-6590596>
9. <https://mainichi.jp/articles/20251007/k00/00m/040/371000c>
10. <https://mainichi.jp/articles/20251008/k00/00m/040/257000c>
11. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/7599151af0c944ab3458.pdf>
12. [https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/0ac3dab0a77c9af8b11e.pdf](https://kotopat.com/長巻きトイレットペーパー訴訟が示す「特許侵害/13. <a href=)
14. <https://www.sbbi.jp/article/cont1/33264>
15. <https://shukatsu-mirai.com/archives/52057>
16. <https://www.hpc-news.co.jp/media/productinfo/a733>
17. <https://media.moneyforward.com/articles/7537?page=2>
18. <https://ameblo.jp/123search/entry-12766640300.html>

19. https://www.nikkei.com/compass/industry_s/0043
20. <https://www.crecia.co.jp/corporate/recruit/fresher/works/project-story/project-2/>
21. <https://www.yasu-ku-kau.com/blog/japan-toilet-paper-market-history-competition-1945-2025>
22. <https://www.hpc-news.co.jp/media/feature/a446>
23. <https://online.logi-biz.com/38932/>
24. <https://www.nipponpapergroup.com/csr/sdgs-product/pdf/10.pdf>
25. <https://news.audee.jp/news/azFzTnOm0f.html>
26. <https://www.jmr-g.co.jp/proposal/pdf/No239/P20-22.pdf>
27. <https://kaminotakuhaibin.com/archives/8114>
28. <https://ctiweb.co.jp/con/【patent】丸富製紙、国内最長級200m以上の超長巻きトイ/>
29. <https://www.marutomi-seishi.co.jp/news/20250711/7554/>
30. <https://www.marutomi-seishi.co.jp/sdgs/【ついに登場！史上最長級の長さ※】6倍なが〜/>
31. <https://www.youtube.com/watch?v=4QyLj1PJUxc>
32. <https://vision00.jp/topic/11029/>
33. <https://vision00.jp/topic/9424/>
34. https://www.crecia.co.jp/whatsnew/2025/pdf/251008_news.pdf
35. <https://www.marutomi-seishi.co.jp/news/20240201/6765/>
36. <https://gogo5-blog.com/entry/20250326/1742989723>
37. <https://www.kpps.jp/papermall/knowledge/page/NEWS/KNP0012081>
38. https://mebuki-iplf.jp/ip_japan03.php
39. http://fintpat.com/fukumoto_lecture_at_jpaa_2016_04.pdf
40. <https://www.daio-paper.co.jp/wp-content/uploads/n280928.pdf>
41. <https://www.fnn.jp/articles/-/746967?display=full>

42. <https://www.corporate-legal.jp/news/1216>
43. <https://shousei.jp/topics/blog220928/>
44. <https://www.fnn.jp/articles/-/163539?display=full>
45. <https://www.askul.co.jp/p/KU57398/>
46. <https://www.daio-paper.co.jp/news/特許侵害訴訟に関する東京地方裁判所の判決につ/>
47. <https://www.yodobashi.com/product/100000001005262844/>
48. <https://www.monotaro.com/k/store/丸富製紙 トイレットペーパー/>
49. <https://www.ip-adr.gr.jp/case/case06/>
50. https://www.biccamera.com/bc/category/001/170/025/020/?spec_683164_004=070&71m&
51. <https://www.nikkei.com/article/DGKKZ064639170W2A920C2TB0000/>
52. <https://item.rakuten.co.jp/at-life/9900000003466/>
53. https://www.nipponpapergroup.com/ir/pdf/Integrated_Report_J2020_02.pdf
54. https://www.daio-paper.co.jp/wp-content/uploads/pdf/2024/DAIO_2024_3.pdf
55. <https://www.dreamnews.jp/press/0000330986/>
56. <https://www.reportprime.com/ja/トイレットペーパー-r918>
57. <https://www.nipponpapergroup.com/news/archive/>
58. https://www.kamipa.co.jp/wp/wp-content/themes/jp-2017/assets/img/ir/pdf/ir2023/2023_OVOL_all.pdf
59. <https://pando.life/article/1452182>
60. <https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/5afa30217bf42397d6b5db74517e36e4cd628c19>
61. <https://pro.crecia.co.jp/company/history.html>
62. <https://ipforce.jp/News/ip-news/summary/2024-08-26-6905>
63. <https://www.corporate-legal.jp/news/5828>
64. <https://yorozuipsc.com/blog/610069>

65. <https://vision00.jp/topic/4166/>
66. <https://www.neoflightpat.com/知財系/no-664-patent-issues-of-nipponpapercrecia-and-daiopaper/>
67. <https://www.nikkei.com/nkd/company/article/?DisplayType=1&ng=DGXZQ0UC277P20X21C25A0000000&scode=3880&ba=1>
68. <https://www.youtube.com/watch?v=J1lc5CXn3rc>
69. <https://ipforce.jp/patent-jp-B9-6210785>
70. <https://note.com/interbooksjp/n/ne582085bd01d>
71. https://unius-pa.com/infringement_lawsuit/10323/
72. https://www.crecia.co.jp/whatsnew/2025/pdf/250731_news.pdf
73. <https://www.raichi-ip.jp/blog-post/410574>
74. <https://sonare-ip.com/2024/11/06/22517/>
75. <https://chizainomadoguchi.com/trivia/202510160001/>
76. <https://bestcalendar.jp/articles/trend/1098>
77. <https://www.nikkei.com/article/DGXLZ081222890S4A221C1QM8000/>
78. <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/338785?page=2>
79. <https://axispat.jp/blog/3929>
80. <https://toyokeizai.net/articles/-/576883>
81. <https://kaminotakuhaibin.com/archives/11066>
82. <https://www.yomiuri.co.jp/economy/20250214-0YT1T50137/>
83. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UB08B0N0Y5A800C2000000/>
84. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0UC0572L0V00C22A9000000/>
85. <https://www.tdb.co.jp/report/economic/bookcase3/>
86. <https://yusakamiten.com/blogs/iseecolumn/toiletpaper-marketprice>

87. <https://www.ip-bengoshi.com/archives/2177>
88. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/2849>
89. <https://jpaa-patent.info/patent/viewPdf/3037>
90. http://www.jipa.or.jp/kaiin/kikansi/honbun/2017_01_051.pdf
91. <https://ipm-experts.com/wp-content/uploads/2019/05/cacdee923fea9a3f1337abd42e95facf.pdf>
92. <https://www.ip-bengoshi.com/archives/6465>
93. https://www.kyowapatent.co.jp/images/kyowapatent/ipinfo/pdf/170407_r01.pdf
94. <https://www.inpit.go.jp/content/100881306.pdf>
95. <https://www.nikkei.com/article/DGKKZ091825850Y5A001C2TB1000/>
96. https://www.nakapat.gr.jp/ja/legal_updates_jp/ 【特許★★】日本で初めて数値限定発明につき均/
97. <https://www.juris.hokudai.ac.jp/riilp/wp-content/uploads/2022/04/97d401eacfea991c32d5fa8d1d40df88.pdf>
98. http://www.kato-pat.jp/mailmagazine/vol_087.html
99. https://nipo.gr.jp/wp-content/uploads/2024/12/2024_9.pdf
100. <https://www.sankei.com/article/20240821-47FLX4XALJLRBMGN3RWMKDXOCA/>
101. <https://axispat.jp/news/知財の教訓-第105号>
102. <https://www.nikkei.com/article/DGKKZ082930260R20C24A8TB1000/>
103. <https://www.japantappi.org/wp-content/uploads/2024/01/back-number2023.pdf>
104. <https://www.corporate-legal.jp/news/4957>
105. <https://www.nby.stylemap.co.jp/15715.html>
106. <https://www.askul.co.jp/rd/15-0615-0615001-06150010001/>
107. <https://nt-patent.com/トイレットロール事件/>
108. <https://store.shopping.yahoo.co.jp/cocodecow/y146ed.html>

109. <https://note.com/pingdun/n/n17b3c9e76403>
110. <https://search.kakaku.com/トイレトペーパー ダブル3倍巻き/>
111. <https://www.zaikai.jp/articles/detail/2018>
112. <https://sakidori.co/article/2360128>
113. <https://www.yomiuri.co.jp/economy/20220906-0YT1T50170/>
114. <https://finance.yahoo.co.jp/news/detail/c03b7ef8aada03a2ccbedc0eb185c52ff6a4f055>
115. https://www.nipponpapergroup.com/ir/actuon2021_web.pdf
116. <https://www.youtube.com/watch?v=jfKCGQ43DXs>
117. <https://ipforce.jp/Hanketsu/jiken/no/14412>